

学校だより

平成 25 年 7 月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



- 校長式辞
- 学科紹介
- 特集：絵はがきにみる本校の明治・大正時代
- 国際交流
- みんなの声
- 学生活動

- 学生表彰
- 東海地区高専留学生交流会
- 新任教員紹介
- 教職員の人事異動
- 学校通信

校長式辞

平成25年度入学式・本科・専攻科（生産システム工学）

校長 藤田 稔彦

鳥羽商船高等専門学校本科ならびに専攻科新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんが入学された鳥羽商船高等専門学校は、非常に長い歴史と伝統のある学校です。本校の前身である鳥羽商船が、明治六大教育家の一人、近藤真琴翁によって明治14年に創設されて以来、今年で132年になります。

本校では、昭和42年に国立高等専門学校となって以来、次の三つの教育目標を掲げています。

- ・ジェントルマンシップ、レイディシップ豊かな人間であること。
- ・創造性豊かな技術者となること。
- ・国際性豊かな社会人となること。

高等専門学校は、昭和37年に第一期12校が誕生して以来、昨年50周年を迎えました。これを機に「進化する高専」をキャッチフレーズとして、更なる高度化を目指しています。そのキーワードは「国際的に通用するグローバル人材の育成」、「地域や産業界のニーズに応えることのできるイノベーション人材の育成」です。これは正に本校の掲げている教育目

標そのものですが、本校も更なる高度化を目指して今準備を進めているところです。

ここで本科3学科それぞれの教育目標や卒業後の進路などについて簡単にお話しします。

商船学科では、技術革新に適應した船舶運航管理技術者、すなわち航海士、機関士、いずれは船長、機関長として活躍できる人、あるいは海事関連産業で幅広く活躍できる人を育成しています。

電子機械工学科では、機械技術や電子・制御技術、あるいはそれらの複合したメカトロニクス、ロボットデザインなどの技術分野で活躍できる人を育成しています。

また、制御情報工学科では、コンピュータシステムを用いた情報処理やソフトウェア開発あるいは自動制御の分野で活躍できる人を育成しています。

高専では低学年のときは高等学校とほぼ同じ授業科目があり、高学年に進むにつれてこの一般教育科目が減り、そのぶん専門科目が増えてきます。これは楔形教育と言って、5

年制の高専ならではの特色ある教育形態です。また、実験実習を重視した体験型の学習や最終学年での卒業研究などを通して、実践的技術者としての能力を養っていきます。少し先の話になりますが、皆さんが本科を卒業した後の進路としては、就職、専攻科への進学、あるいは大学3年生への編入学があります。さらにその先には大学院への進学という道もあり、比較的自由に進路を選ぶことができます。

本校では、本科3学科の上に海事システム学専攻と生産システム工学専攻の2専攻を設置しています。専攻科に入学された皆さんは、すでに本科5年間の課程を卒業された準士ですが、これから2年間、さらに専門性の高い授業を受け、指導教員のもとで特別研究や論文発表などを行い、2年次後期に大学評価・学位授与機構の審査認定によって、4年制大学卒と同じ学士の称号が授与されることとなります。

皆さんの年の頃は、精神が柔軟で吸収力があり、本当に勉強が大切なときです。しかし、その一方で、皆さんには先輩や同級生仲間とともに青春時代を大いに楽しんで貰いたいと思っています。「よく学びよく遊べ」で、クラブ活動やサークル活動に積極的に参加することをお勧めします。多くの体育系、文化系の部のほかに、

ロボコン、プロコンなどの同好会も活躍しています。東海北陸地区大会や全国大会等では、他校の学生とも交流するチャンスがあります。

学生寮に入る皆さん、寮生活はおそらく初めての経験と思いますが、共同生活において最も大切なことは、皆が規則を守り、お互い迷惑になることは慎むこと、他人の個性を認め尊重することだと思います。人は一人ひとりみんな違いますし、それぞれ得手・不得手、長所・短所があります。また、お互いの相性というものもあります。しかしながら、その違いをお互いに認め尊重し合う良識をもって、誰もが楽しい寮生活が送れるように努めてください。

本校では、本校の教育目標に沿い、学則に則り、用意した教育カリキュラムに従って学生諸君の教育に当たってまいります。保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針にご理解をいただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



商船学科の特徴



商船学科・航海コース主任 石田 邦光

今回は、商船学科の新たな取り組みについて紹介します。昨年度、文部科学省の大学間連携共同教育推進事業として「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」が採択されました。この事業は、5年計画で通称「海事人材育成プロジェクト」と呼んでおり、商船学科を有する5高専と海事関連4団体（日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会）が1つのチームとなって推進させるものです。事業としては、次の3つのプロジェクトから構成されています。

- ①新たな海事技術者に必要な資質の涵養。これはグローバル化に対応したもので、英語力（コミュニケーション力）向上プログラムの開発とグローバル人材（外地駐在意欲）育成のための国際インターンシップの展開を目指します。
- ②新たな海事技術者に不可欠な知識・技能の育成の取組み。これは、機関係、航海系及び共通教科教材の開発、教材の電子書籍化の推進と、大型練習船（海上履歴対応）の共同利用などの新しい航海実習の提案を目指します。
- ③新たな海事技術者を確実に継続的に育成し得る高質な海事教育システムの実現。これは、新しき時代に活躍できる海事技術者像と具備すべき知識・技能の提示と、確実な海事教育システムの提示を目指します。

本校は、「新たな海事技術者に必要な資質の涵養」プロジェクトの総括校であり、「英語力（コミュニケーション力）向上プログラムの開発」サブプロジェクトの担当校になっています。このサブプロジェクトでは、学内にグローバル教育拠点として、英語教育専門の部屋と専門の教員を配置しています。各種教材を用意し、商船学科学生の英語力向上を目指して各種教育プログラムを準備しています。学生が大いに利用してくれることを期待しています。また、他のプロジェクトなどについても機会があれば紹介したいと思います。

商船学科・機関コースについて（進路と勉強の大切さ）



商船学科・機関コース主任 伊藤 友仁

商船学科は3年生から二つのコースに分かれますが、その一つが機関コースです。勿論、三級海技士の第一種養成施設ですから、機関コースを選ぶ多くの学生は外航船の機関士を目指します。また、船舶で学んだ機械や電気等の技術を活かし、陸上の製造業等など、工業系学科の進路と同様な選択も可能です。実際、船会社を含む海事関連企業から陸上の工業系企業にいたるまで、学生一人当たりの求人数は学内で最も多くなっています。

機関コースの学生は、次のような大型設備を使用して実習を行います。ほんの一部だけ記しますが、陸上企業からも求人がある理由が理解できると思います。

（ディーゼルエンジン）現在、船舶のメインエンジンとして最も多く使用されています。内燃機関学などの授業で理論を学び、実習でディーゼル機関の性質を理解します。

（蒸気タービン）主にLNG（液化天然ガス）運搬船の主機関として使用されています。陸上では、発電所などの大規模な施設で発電の為に使用されています。（蒸気ボイラー）蒸気タービンに送り込む蒸気を作り出す装置です。蒸気タービンとともに理論などを授業で勉強します。

（その他）船舶の各種補助機関、電気設備や工業材料等々、関連分野の高度な機械、装置類が多数整っていて、何れも授業では基礎理論を学びます。

最も就職の選択肢が幅広い機関コースですが、最後に一番大切なことを述べておきます。企業の採用が厳しい昨今、希望する会社に合格する人たちは、明るく健康であることは勿論、中学校と高校の基礎学力が高く、船会社の場合2級もしくは1級の海技士筆記に合格しています。低学年のみなさんは、ぜひ一般教育の基礎科目（英数国理社など）をしっかり勉強してください。高学年のみなさんは過去に遡って基礎を勉強してください。間違いなく、就職試験で役に立つでしょう。

電子機械工学科について

電子機械工学科長 廣地 武郎

電子機械工学は、本校ではエレクトロニクスメカニカルエンジニアリングと英訳していますが、エレクトロメカニクス、メカトロニクスなども訳される工学です。本学科は略称をM科としていますが、MechanicsのMです。本学科は昭和60年に発足し、平成2年3月に第1期の卒業生を送り出しています。つまり学生年度と卒業期は一致しているわけです。短いとはいえ、すでに4半世紀にわたってエンジニアを社会に送り出しています。

電子機械工学科は、端的には、機械のことがわかる電気技術者、電気のことかわかる機械技術者を育てることを目的とした複合学科です。ある意味使い勝手のいい技術者の養成ということになります。専門科目は電気/電子工学、機械工学の基礎科目重要科目を万遍なく配置しています。そのため、(機械なら機械、電気なら電気の)単科学科に比べ個々の科目では深いところまで授業できないという悩みは残ります。単純計算では半分の授業時間というわけですから。ただ、「あつ、このこと知ってる」と言うだけでも次に進める気になれるわけです。学生時代に基礎を学んでいるということは、後に技術者として社会に出たときに非常に有利になると思います。(当然のことながら、制御、情報系科目も授業科目にあります。説明の簡略化のためにあえて機械、電気のみ取り上げて説明しています。)

今日、ハイブリッド、コンバインド、マルチパス、などという言葉があふれていますが、要はいくつかの機能/要素の組み合わせでより高い効果を生み出そうというものです。人もまた人材と呼ばれ、変化する状況に対応のできる多様な能力を持つことが期待されています。そのような人材の育成のためには、単なる足し算ではなく掛け算になるような複合を目指して授業内容の見直し、学科のあり方の検討を続ける必要があると感じています。使い勝手のいい技術者=適応能力の高い技術者の輩出がわれわれの責務だと考えています。

制御情報工学科の紹介



制御情報工学科長 榎本 隆一

制御情報工学科は昭和63年4月に航海学科と機関学科の改組によって誕生しました。そして、情報工学、制御工学、電気電子工学および機械工学の4分野に基礎を置く工業系学科として優れた人材を世に送り出してきました。ここ10年ほどは、情報応用システムと組み込みシステムの分野に重心を移しつつ、巨大で高速なネットワークの背後に存在するクラウドコンピューティング技術と個人や家庭の所有する様々な機器に対する組み込み技術の融合する未来を見据えて、教育内容の高度化を図ってきました。

3年生までの低学年の学生にとつての制御情報工学科の専門教育の魅力は、他高専と同様、博士の学位をもった現役の研究者が行う熱意溢れる講義を受講できる、ということでしょう。たとえば、なぜ、そのような勉強が必要なのか、何の役に立つのか等についても、先生方に折に触れて聞いてみてください。きつと、明確で夢のある答えが返ってくるはずですよ。4年生や5年生にとつては、教育の実戦性が大きな魅力となっています。高学年の学生は専門的な技術を日々、学んでいるわけですが、学んだことを実地に試してみたり、現実のシステムについて知らべてみたり、という機会が数多く提供されています。

さて、制御情報工学科の卒業生の進路ですが、例年、就職者6割、進学者4割程度で推移しています。就職先は概略で情報通信業界、インフラ業界、フィールドエンジニアリング業界、その他専門業種がそれぞれ4分の1づつ、という割合です。有名な大企業が多く、また、高専本科からの就職は競争倍率が数倍程度と非常に優遇されています。進学先は豊橋技科大と本校の専攻科生産システム工学専攻が中心ですが、岐阜大などの地方大学や電通大をはじめ、筑波大、時には旧帝大にも進んでいます。大学編入学(本科)や大学院受験(専攻科)のための勉強会は年間を通して行っています。低学年でも参加できますので、学科長に相談してみてください。

一般教育科から望むこと



一般教育科長 鏡 ますみ

本年度の一般教育科目は、15名の常勤教員と12名の非常勤講師という体制で運営しています。4月に新入生を迎えて以来ほぼ4カ月が経過しましたが、緊張感が薄れてきた学生も見受けられます。ここでは、高専で学ぶにあたって学生の皆さんに常日頃から心がけてほしいことを書きたいと思います。

昨年度10月に1年生にスタディサポート試験を実施しました。英数国の得点についてはほぼ予想通りでしたが、学習状況リサーチの結果が衝撃的でした。家庭学習時間(三教科合計)が授業期間中であっても1日につき30分も確保されていないのです。堂々とゼロ分と回答している学生が少なからずいました。家庭学習時間の短さは高専生の全体的な傾向ですが、本校の場合ほとんど勉強していないに等しい時間です。これでは基礎学力はつきません。中学校で蓄えた学力を食いつぶしていくだけで、各学科の専門科目の理解と発展にはつながりません。

一般教育科目は皆さんの未来を創る基礎を固める教科です。高専の卒業生には、グローバル化時代の技術者として、国内外で外国人技術者との協働が期待されています。その時には技術力はもとより、コミュニケーション力、英語力などさまざまな能力が求められます。それらは一朝一夕では身につかず、皆さんの日々の学習で作り上げられていくのです。生活リズムを整え、十分な睡眠時間を確保し、授業をしつかりと聞き、下校後は毎日学習する習慣をつけてください。難しいことではありません。試験直前のその場しのぎの学習だけでは真の理解には至りません。

そして、もう一点強調したいことがあります。全ての教科の理解の基礎となるのは皆さんの日本語運用能力です。自分の持っている語彙は限られています。ですから意識的に手持ちの語数を増やす必要があります。良質の日本語で書かれた文章を読み、日本語の語彙数を増やし、豊かな表現力を身につけてください。それは専門科目の理解、外国語の習得に役立ち、コミュニケーション能力を高め、皆さんの将来の可能性を広げてくれます。

人生は学びの連続です。皆さんには、高専卒業後は専門分野ばかりでなく、さまざまなことを学んで自立、自律した学び手に成長してほしいと思います。そのための第一歩としてここに記したことを心がけてください。一般教育の教員はそのために喜んでお手伝いしたいと思います。

専攻科・実学を尊重した実践的な技術者の育成



専攻科長 坂牧 孝規

本校専攻科は、海事システム学専攻、生産システム工学専攻の2専攻からなる修業年限2年の教育課程です。専攻科を修了し、学位授与機構の試験に合格することで、四年制大学を卒業したのと同様な商船学や工学の学位を取得することが可能です。さらに、学会発表の推奨や語学研修の支援など、四年制大学卒業以上の経験を積むことも可能です。

専攻科の就職・進学状況は、本年度も良好です。就職活動については、既に就職希望者全員の内定が決まっています。また、大学院への進学も、特別推薦や上位校合格を目指して学生たちは奮闘中です。これは、多くの学生が目的意識を持って専攻科に入学していること、さらに専攻科を修了したOBの活躍も、刺激になっているのかもしれない。先日、本校専攻科修了後、国立大学の大学院に進学した学生が就職した企業の人事担当者が、専攻科修了生を対象とした求人に来られるなど、専攻科修了学生の評価も高いようです。

ここで、専攻科の取り組みの一つをご紹介します。現在、専攻科では教職員が一丸となって、「FAラインPBL学習設備」を用いた学生実験のプログラムを開発しています。企業におけるFAシステムの開発技術者のニーズは高い一方で、その実践的な教育プログラムがほとんど無いのが現状です。この実験プログラムにより、シーケンス制御の基礎技術、国際規格に基づく新しいPLC(Programmable Logic Controller)プログラムの開発手法、複数のメンバーで大規模なシステムを開発するためのマネージメント手法、PBL型の実践的なFAシステムの開発技術などの習得が可能となります。

専攻科では、実学を尊重した実践的な技術者を育成し、進学にも就職にも有利な専攻科実現を目指し、教職員も頑張っています。

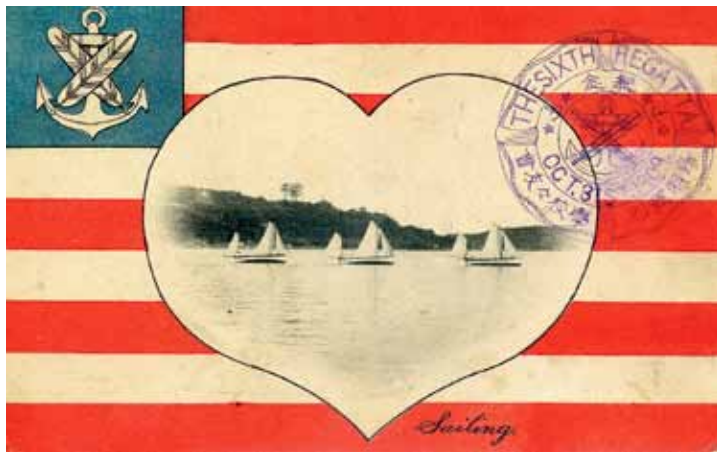
(FA: Factory Automation, PBL: Problem-based Learning)

絵はがきにみる本校の明治・大正時代

電子機械工学科 水野逸夫

1. 絵はがきの発行と隆盛

絵はがきが郵便制度上で初めて認められたのは明治33年のことです。明治37年に通信省(後の郵政省)が発行した日露戦争に関する絵はがきが人気を集めたことがきっかけとなり、全国的に爆発的な絵はがきブームが巻き起こりました。絵はがきは写真の代替としての役割もあります。観光用のお土産品や美術品としてばかりでなく、官公庁、企業、商店、学校などの宣伝用や記念品として非常に多くの



絵はがき1 : Sailing



絵はがき2 : Pulling

種類が発行されました。今では貴重な歴史資料としての価値を持つものも数多くあります。

2. 明治時代の本校の絵はがき

絵はがき1と2は本校が鳥羽町立時代の明治42年に鳥羽商船学校校友会が発行したもので、本校に関する初めての絵はがきと考えられます。題材はカッターレースです。「THE SIXTH REGATTA OCT. 31ST. 1909」の記念印が押してあります。絵はがきは鳥羽湾でのカッターのセーリングとプーリングのレースの写真、カラフルで興味深いデザインと合成して作られています。なかなかの出来栄であり、本校の資料として貴重なものであると言えると思います。

3. 大正時代の本校練習船「天城」の絵はがき

絵はがき3は係留練習船「天城」船上での記念写真を絵はがきにしたものです。「天城」は明治42年に帝国海軍より保管転換を受け、池の浦湾に固定係留されました。運行は不能でしたが、船舶の運用術や当直などの船上実習に有効に使用されました。本校が明治44年に三重県立へ移管された後も、大正4年末まで使われ、その使命を果たしました。現在もそうですが、当時も本校卒業生が船舶の甲種免許を取得するためには帆船による一定期間の実習が必要でした。航海訓練所がまだ設立されていない時代であり、当時すでに数も少なく労働条件の悪い民間の帆船での乗船実習は非常に困難と苦勞を伴うものでした。そこで県立移管後、自前の練習船を所有、運航しようとの気運が盛り上がりました。その際、「天城」を解体して、その廃材で再利用できるもののはできるだけ新練習船の材料として使用されることになりました。そのため「天城」は大正5年の4月に解体されました。当時の校友会誌「海友」

第79号に「大正4年12月16日、旧

練習船天城甲板に於て盛大なる告

別式を挙行せり」との記事があり、

この絵はがきの写真は当日撮影さ
れたものと思われま

4. 新練習船「あまき」の絵はがき

絵はがき4は新練習船「あまき」

(バーク型300総トン補助機関付)の
全景写真です。新練習船「あまき」

の建造は大正5年4月に鳥羽の江
崎造船所で始まりました。大正5
年9月に進水し、大正6年1月に
竣工しました。1月25日には竣工
式が行われました。

この絵はがきは実際に郵便はが
きとして使われたものです。裏面
には1銭5厘の切手が貼ってあり、
鳥羽郵便局の大正6年2月13日の
消印が押してあります。本校の学
生が宇治山田市(現在の伊勢市)
に下宿している友人宛に差し出し
たものです。手紙の内容は2月11



絵はがき3：練習船「天城」

日の紀元節(現
在の建国記念
日)に本校から
二見町までの往
復マラソンがあ
り、15位に入賞
したことなど、
当時の学校生活
をしのばせるも
のです。
「あまき」の
活躍については

本校の「百年史」(本校の図書館で
閲覧可)に詳しく述べてあります

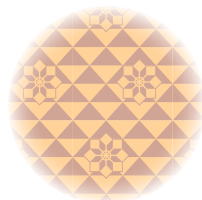
のでここでは省略しますが、「あ
まき」の悲劇的な最期について簡
単に記します。大正14年3月、「あ
まき」は東京から伊豆半島を経て
大阪に向かう途中、静岡県の御前
崎近くの相良町沖合いで座礁して
しまいました。船底を損傷し、進
水のため航行不能になったのです。

その後、引き上げ、修理のための
準備と努力がなされましたが、連
日の風波のため船体が大破し、つ
いに放棄されてしまいました。死
傷者が1名もなかったことだけが
救いでした。大正14年7月発行の
校友会誌「海友」第97号にはこの
遭難の顛末記事が掲載されており、
その末尾は次

のように結ん
であります。
「・・・彼女の
霊は秀麗なる
富嶽の下、水清
き駿河湾底に
静かに眠りて、
池の浦幾多の
健児を守護す
べきか。」
この当時、地



絵はがき4：練習船「あまき」



方公立商船学校の遭難事故が相次
いで起こり、多数の死傷者が出ま
した。それらの惨事が強く世論を
喚起することになりました。それ
が昭和5年の航海練習所(現在の
航海訓練所)の設立と初代「日本
丸」、「海王丸」の建造へとつながっ
ていきました。



国際交流引率記

副国際交流推進室長 橋爪 仙彦



本校の国際交流推進室では、いくつかの国際交流プログラムに携わっています。主なものとして、シンガポールでの「MELキャンプ」（年に3回）、「高専生のための英語キャンプ」、「国際プログラミングコンテスト」、ハワイのカウアイ島での「KCC（カウアイ・コミュニティー・カレッジ）国際インターンシップ」という学生を海外に派遣するプログラムがあります。

平成24年度は、そのうち4回のプログラムで学生を本校の教員が引率しました。「MELキャンプ」はSMA（シンガポール・マリタイム・アカデミー）のプログラムに本校の学生が参加するもので、必ず引率教員がつきます。また、「KCC国際インターンシップ」は全国にある商船学科を持つ高専が協力して行うプログラムで、3週間の日程の間に教員が交代しながら引率指導を行っています。残りの二つのプログラムも他の高専との協力体制で行っているため、引率を行った実績があります。

MELキャンプでは、SMAの学生が主となって、中国や韓国、インドからの学生たちと共に客船に乗

り込み、船内で講義を受講したり、グループワークを行ったりしながら交流を深めます。約1週間の滞在ですが、海外を知るにはいい機会になります。

また、KCCでの国際インターンシップは、他の高専の学生たちと集団生活をしながら、現地でポリネシア人が伝えた伝統航海術やハワイ文化について学びます。また、救命の実習やカヌーの製作も体験します。

私たち教員は学生たちを見守り、コミュニケーション能力がいかに重要か気づかせ、今後の語学への取り組みにステップアップできるようなきっかけ作りをしています。その中で、「いかに安全に学生を派遣し、安心して海外で滞在させることができるか」を考慮しながら、よりよい研修になるような検討を常に行っています。



みんなの声

テーマ：私の国際感覚



- もっと英会話力をつけ、夢を目指したいと思った。(SN4)
- 普段の生活感覚が日本人とは違いすぎる！(SN4)
- 語学の知識も大切だけど、まず人とつながろうとする心意気が大切だと思う。(SE4)
- 英語が上手く喋れるかどうかではなく、コミュニケーション能力が必要なのではないか。(M4)
- 日本の中小企業も海外企業と交流を持つ昨今、海外交流が普通なのだと感じています。(M4)
- 国際感覚を養うために、私は言葉の壁なんてものは存在しないと思います。大切なのは伝えようとする心であって、言葉の得手不得手なんて関係ないと思います。(I4)
- 違う国の映画やドラマの作品でも面白いと感じられるので不思議だと思った。(I4)
- 私は現代社会のグローバル化に伴い、英語力を付けなければならないと思いTOEICのテストなどに取り組んでいます。(SN5)
- 船乗りとして活躍するために日本だけに囚われず世界にも視野をむけること。(SE5)

- 世界で活躍できるエンジニアとなるべく、世界的共通語の英語を勉強しています。(SE5)
- 私は今まで海外研修に2度参加しました。今夏はTOIECのスコアアップを目指してホームステイをしたいと考えています。(I5)
- 私が感じている海外とのギャップは失敗に関するものです。海外を見習い挑戦を心掛けています。(専攻科1年)
- 私の学んでいる情報工学が海外の友人と自分を繋いでいる事を、日々実感しています。(専攻科2年)

留学生

- 留学して、色々な国の友達ができ、それぞれの自分の国のことをよく話し合い、国際的な視点を見つけ、新しい考えを持つようになった。
- グローバル時代では、英語だけでなく、世界のことをよく知ることが必要だと思います。
- 英国で挨拶は、ほっぺにかかるくキスをする。そして、その日本人留学生とは英国風に挨拶した。

学生生活活動

リーダーズトレーニング



制御情報工学科5年
田岡 友貴

私は学生会役員として1月18日の夜から20日の夜までの3日間、岐阜県高山市の乗鞍青少年交流の家へリーダーズトレーニングに行きました。学生会役員の他に、各クラブのキャプテン、副キャプテンや代表の学生が参加し、教職員と合わせて49名で学校からバスに乗り岐阜県に向けて出発しました。

18日はバスで睡眠をとり、目が覚めるころにはあたり一面が白く覆われた雪景色で感動しました。19日の昼すぎにはスキー場に到着し、スキー場での注意事項や宿泊のルールの確認をした後に、ウェアに着替えて班に分かれてゲレンデでスキーとスノーボードの体験学習をしました。初めての学生もインストラクターの先生の指導で滑れるようになっていました。

この日の夜に学生会は、各役職の引継ぎや今後の学生会の活動方針、平成25年度の学校行事のスケジュールリングを行いました。その後入浴と

自由時間で1日の疲れを取り、10時には消灯・就寝しました。

最終日の20日は、朝からスキーとスノーボードの体験学習を行いました。前日の疲れもありましたが、最後まで楽しく滑ることができてよかったです。昼には研修施設を出ました。帰りのバスではほとんどの学生が疲れて寝ていました。インターでトイレ休憩、夕食を済ませて夜の9時ごろに鳥羽に帰ってきました。大きな事故や怪我が起きることなく、全員が無事に帰ってくることができてよかったです。

この3日間はとても貴重な体験学習になりました。このリーダーズトレーニングで感じたことや学んだこと、体験したことをこれからの学生会活動、クラブ活動等で活かしていきたいと強く思いました。

体育祭について



制御情報工学科4年
服部 龍太郎

制御情報工学科4年の服部龍太郎です。今年の第11回体育祭の実行委員長を務めさせていただきました。

今年の体育祭のテーマは「いつ汗をかくの? 今でしょ!」でした。これは、日頃勉強を頑張っている本校の学生全員のために、体を動かし汗をいっぱいかいて気持ちをリフ

レッシュしてもらいたいと思い、学生会役員一同、全力で体育祭を盛り上げることを目標に努力しました。そのため、去年の反省点を生かし、少しわかりにくかった競技のルールを改善しわかりやすくまとめることで、安全かつフェアな競技進行を実現することができました。至らない点はいくつかありましたが、私にとっても本校の学生にとってもよい体育祭にすることができました。

しかし、私は今回初めて体育祭実行委員長という責任のある役職について、人に指示を出すことの難しさを感じました。私は4年生ということでも5年生に指示を出すことに対して抵抗があり、やめたいと思ったこともありましたが、先輩方から指導をいただいたおかげで、人の上に立ち命令をするということがわかり、責任のある役職についていけない私にとって、とてもよい体験になりました。

鳥羽商船高等専門学校では、こういった役割についていたり、プログラミングコンテンツ、ロボットコンテンツなどで自分の技術力を評価してもらえるなど、様々なことが体験できますので、自分の成長のためにも、少しでも興味があるなら迷わず挑戦してみてください。

少林寺拳法と私

電子機械工学科4年 大戸 笑菜

私は小学1年生の時に少林寺拳法を始めました。そのときは姉といっしょに、親に連れられて入門しました。そして、本校に入るまでずっと地元の道場に通っていました。中学校3年生の時に同じ道場の子と組んで三重県大会の中学生の部で最優秀賞をもらいました。

そして、もっと大会で活躍してみたいと思い、少林寺拳法部があるこの学校に入学しました。入学後、すぐに少林寺拳法部に入部し、高校生大会への出場をめざして練習に取り組みました。これまでに夏の全国高等学校少林寺拳法大会に2回、春に開催される全国高等学校少林寺拳法選抜大会に2回出場できました。さらに、夏休みを利用して全国の高校生が集まる合宿にも参加しました。それらは道場の練習や三重県大会とは違った雰囲気でも勉強になる場所でした。

また、1年生の時から鈴鹿高専に通っている姉と組んで、少林寺拳法三重県大会の「一般女子有段の部」で3年連続して最優秀賞を取ることができました。今年は8月に大阪で世界大会があります。姉と私は、三重県代表として出場することになりました。初日は日本予選になり、二日目が見事世界大会本選になります。今回、

間近で外国の拳士の演武を見る事ができるので、今から楽しみにしています。これからも、もっと鍛えて自分自身を伸ばしていきたいと思えます。



全国高等専門学校水泳競技大会2年連続出場

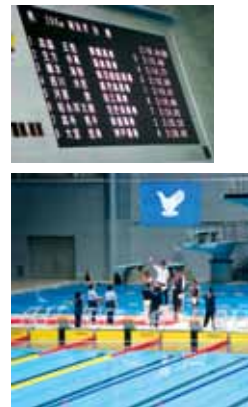
水泳部 橋本 海翔

2012年度全国高等専門学校水泳競技大会は、1年の時に続き2回目の出場でした。前回は100メートル背泳ぎに出場しましたが、今回は得意としている200メートル背泳ぎで出場することができました。

今回の会場は広島県の広島ビックウェーブで、全国の高専から集まった人たちの多さには圧倒されました。大会当日、試合は予選、決勝方式で行われ予選を3位で終えることができました。それから気持ちも楽になり、決勝でも3位で表彰台に立つことができました。

この大会を通じて私があらためて感じたことは、1人ではこの舞台に立てなかつたということです。鳥羽商船に水泳部があり、そして家族がいて多くの人に支えてもらった結果

です。今年の水泳部の部員も今では約20人まで増えました。今年もみんな支えあいながら、頑張ります。



サテコン（衛星設計コンテスト）に参加して

制御情報工学科5年 小山 恵里

サテコン（衛星設計コンテスト）とは、全国の大学や高専が参加する人工衛星の設計や宇宙についてのアイデアを提案するコンテストです。設計の部とアイデアの部があり、本校のチームは毎年アイデアの部で、宇宙での生活を快適に過ごすためのアイデアや宇宙飛行を身近に感じられる作品を提案しています。

昨年は、「宇宙で淹れたてのコーヒー」というテーマで参加しました。コーヒーについての勉強から始まり、実験により根拠となるデータを取り、それに基づいて模型を作り、宇宙を専門とした方々の前で発表しました。一次審査を勝ち抜き、最終審査で奨励賞を受賞しました。

本校のチームは、全学科から有志

が集まったメンバーで参加しており、昨年はS科2名、M科2名、I科1名で参加しました。また、私は元々宇宙に関する知識はほとんど無く、最初はやっていけるか不安でしたが、指導教官からの様々なお話を聞き、自分達で実験や模型作りをする中で、いろんなことを学びながらも良い経験ができました。

今年も、現状では小惑星からの資源採取をテーマとして参加します。意欲さえあれば初心者でも大歓迎です。少しでも興味のある方は是非一度、2号館2階の電子工学実験室（担当教員は伊藤友）まで。



高専大会テニスの部2年連続3位入賞

高専大会テニスの部2年連続3位入賞

制御情報工学科4年 山下 純加

私は中学1年生の時からソフトテニスを始めました。中学生のころは、優勝することがよく考え練習していました。しかし、鳥羽商船に入学してから、勉強が難しくなり部活に力を入れることが出来なくなりました。

1年生の時の高専大会では、団体のメンバーに選ばれ、当時4年生の生田さんとペアを組み大会に出場



しました。初めての高専大会で緊張していたせいか、力を出しきることが出来ませんでした。2年生の時は、落ち着いてプレーすることを目標にし、その結果、力を発揮することが出来ました。さらに、ペアの生田さんが最後の大会ということもあり、良い結果を残せるように頑張りました。準決勝のとき、私のミスで試合が終わってしまい、非常に悔しくて涙が止まりませんでした。しかし、3位決定戦では、気持ちを切り替え試合に集中することができ、勝つことが出来ました。優勝は出来ませんでした。3年生の時は同級生の富士井さんとペアを組みました。昨年3位だったので3位以上を絶対条件とし、大会に望みました。準決勝で、敗れはしたものの力を出しきることができ、納得のいく試合が出来ました。3位決定戦では、準決勝より良いプレーをしようと思いい試合に臨みました。その結果、勝つことができて3位に入賞することが出来ました。

2年連続で3位をとれたのは私だけの力ではなく、生田さんや富士井さんと力を合わせた結果だと思います。今年の高専大会では、優勝出来るように練習を頑張りたいと思います。



平成
24年度

学生表彰対象者

10月1日(月)

1. 特別表彰

(1) カッター部 Aチーム
第42回～第47回全国商船高専
漕艇大会6年連続優勝

(2) 水泳部

平成24年度全国高等学校体育
大会水泳競技 男子200m背泳ぎ
3位入賞

S2…橋本 海翔

2. 奨励賞

(1) カッター部 Bチーム
第43回～47回全国商船高専
漕艇大会5年連続優勝

(2) ソフトテニス部

第49回・第50回東海地区高専
体育大会 2年連続3位入賞

I3…山下 純加

1月7日(月)

1. 特別表彰

(1) ヨット部

第67回 国民体育大会出場
(岐阜県) (セーリング競技)
(少年男子セーリングスピリッツ級)

SN3…片桐 祥起

SN3…林 直樹

(2) ヨット部

第67回 国民体育大会出場(岐阜県)
(セーリング競技)

(少年男子 シーホッパー級ス
モールリグ)

I3…濱田 和真

(3) ロボットコンテスト Bチーム

アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト
2012全国大会(奨励賞受賞)

東海北陸地区大会(準優勝)

M5…徳田 政也、中西 雄大、
西井 雄飛、武藤 秀徳、
矢田 詠士、山川 祐史、
山際 秀俊、ドーバンズン

山際 秀俊、ドーバンズン

(4) 少林寺拳法部

少林寺拳法全国大会出場
(三重県代表)

三重県少林寺拳法大会
4年連続最優秀賞

(中学3年時を含む)
(一般女子有段の部)

M3…大戸 笑菜

2. 奨励賞

(1) 第24回衛星設計コンテスト
アイデアの部(奨励賞を受賞)

実習生 吉村 美紅

M5…中西 雄大

M4…岡崎 研人

I4…小山 恵里

SN3…杉浦 秀哉



東海地区高専留学生交流会を主催しました

24年度教務主事補 鏡 ますみ



平成24年12月22日（土）～12月24日（月）に、本校が主管校となり、東海地区高専留学生交流会（スキー実習を含む）を「乗鞍青少年交流の家」で実施しました。東海地区の5高専から留学生27名（本校より3名）、引率教職員18名（同9名）、計45名が参加しました。

この催しは、留学生間の親睦を深めると同時に、東南アジア出身が多くを占める留学生がウィンタースポーツに親しむことを目的として毎年クリスマスの時期に実施されています。

初日は、高山市内で昼食の後、古い町並みを車窓から見学し、2日目には終日スキーを楽しみました。そして最終日は、午前中にスキーを行なった後、高山に戻り、川島パークキングエリアで解散しました。また、初日と2日目の夕食後にはゲーム等を通して友好を温めました。

留学生交流会を本校が主催するにあたっては、教務主事室と教務係が中心となり、前回の留学生交流会の見学、施設との事前打ち合わせなども含め、約1年前から準備を始めました。参加学生、各高専への連絡はもちろんのこと、名札や名簿などの用意、会場の人員配置、引率者用

の詳細な日程表の作成、交流会のゲーム内容や景品に至るまで話し合いを重ね、入念に準備をしました。特にメインとなる交流会のゲームでは、今井先生から様々なご提案をいただき、初日と2日目のゲーム内容に関連性をもたせ、全員で楽しめるように構成しました。両日とも先生の司会でスムーズに進行し、館内オリエンテーリングに始まる一連のゲームで留学生、教職員とも大いに盛り上がりました。

今回の交流会は天候に恵まれ、参加者に怪我や病気もなく、主管校としての責任をどうにか果たすことができました。至らないことも多々ありましたが、次回はこの会がさらに充実することを願っています。校長先生始め引率の教職員の方々のご協力に心より深く感謝いたします。



留学生スキー研修に参加して

電子機械工学科4年 ジェフリスヘンドラ

んな私をみた人が親切にも「スキーをするには恐怖心を持たない」ということを教えてくれました。そうすると、大変楽しく滑れるようになりました。今年のスキー研修にもぜひ参加したいと思っています。

昨年、12月22日から3日間、鳥羽の留学生や先生たちと一緒に、高山スキー場に行ってきました。これは毎年行われる東海地方の各高専の留学生の交流会で、初めて参加した私にとっては非常に良い経験になりました。

最初の日には6時半ごろに鳥羽商船玄関前に集合し、川島パーキングエリアで他高専の留学生が乗ったバスと落ち合いました。突然、インドネシアからの先輩が声をかけてくれ、久しぶりにインドネシア語でしゃべりました。

高山で昼食後、あつという間にスキー場に到着しました。雪がたくさん積もっていてすごく感動しました。夜には他高専の留学生と共にゲームに参加しました。緊張がほぐれて楽しい雰囲気になっていきました。

2日目はスキー研修の日です。スキーが初めての私は指導員からスキーを教えてもらいました。最初はうまく滑れなかったので、あまり楽しく感じていませんでしたが、スキーの滑り方やブレーキのかけ方などを学び、だんだん慣れていきました。この日の夜に、僕とマレーシア人の留学生が、同じ時期に研修に来ていた小学生に声をかけました。話をするうちに、だんだん面白くなってきて、楽しい時間を過ごしました。

最後の日には、リフト券をもらいゲレンデで滑りました。何回も転んでしまいましたが、そ



新任教員紹介



電子機械工学科

宮本 潤示

この度、4月より電子機械工学科の助教として勤めさせていただきますことになりました宮本潤示と申します。今年の3月に大学院博士課程を修了し、教員として社会人としてまだまだ未熟者であります。目標を持って精一杯取り組んでいきたいと思っております。大学院では、窒素プラズマを使って金属の寿命を延長させる表面改質処理という技術について研究をしていました。この技術は多くの機械部品や工具、金型など非常に様々な個所で用いられており、日常生活を支えるモノづくりの根幹を支えています。そのような技術をさらに研究し、皆様の生活をより良くする一端を担えたらと思っています。

出身、育ちは愛知県で、鳥羽は観光で数回来た程度でしか知りませんでした。実際にこちらに赴任してみると、非常に自然豊かで過ごしやすく、ここにしかない素晴らしい環境を感じました。学生は素直で挨拶もしっかりできる人が多く、新しい生活で若干の不安があった私も早く慣れることができました。高専ならではの教員と学生の距離の近さに非常にやりがいを感じ、授業だけではなく、クラブ活動や寮生活など様々な個所で学生のサポートができることを大変嬉しく思っております。学生の皆さんには、勉強はもちろんのこと、それ以外にも今しかできない事に色々チャレンジし、充実した学生生活を過ごしてほしいと思います。よろしくお願い致します。



制御情報工学科

都築 啓太

学生の皆さん、自分の「軸」を大事にしていますか？私が担当させていただいているクラスでは、初めての授業時間に将来の夢や趣味などを学生に書いてもらっています。自動車のエンジニア、女性警察官など、凛々しく具体的な夢を書き込んでくれた人もいます。素晴らしい事です。しかし、何を書こうか悩んで白紙で出してしまいう人も少なくはありません。人間は、一人ひとり得意技があります。しゃべるのがうまい、面倒見が良い、活動的、冷静、縁の下の力持ちなど。このような特徴が生じる姿勢となって将来に繋がります。低学年のうちに自分の「軸」を見つけ、育てて欲しいと思います。

実は私も平成18年に卒業するまでは高専での生活を謳歌していました。学生時代に得た宝物をあえて1つに絞るとすれば「仲間」です。在学中一緒に過ごした仲間達は、今ではもう会社の中堅として働いています。中には専攻であった電気の世界を離れて、それぞれの「軸」を生かして転職したり、海外で活躍したりしている人も居ます。様々な分野で野望をもち、刺激しあえる仲間を得たことは大きな財産です。そして私が高専教員という職業を選んだ過程においても、自分の「軸」に気づかせてくれた仲間の存在は無視できません。高専という環境は自分の個性に気づくのに最適な場所です。

高専卒業後、私は東京へ進学し、スカイツリー周辺の下町で7年間生活し、今年から教員として皆さんの仲間に加わります。まず皆さんが自分の「軸」を同志との生活の中から見つけられること。そして、それが震災にも耐えたスカイツリーの心柱のように、固太く、柔軟に育つサポートができるよう頑張ります。



一般教育

西世古 悌治

この度、講師・寮監を勤めさせていただくこととなりました、西世古悌治（にしせこ ていじ）です。平成25年3月まで、公立中学校、県立学校で長く教員生活を送っておりましたので、「新任紹介」欄に掲載していただくことについては恥ずかしい心持ちがします。

出身は三重県伊勢市です。現在も伊勢市内に住んでおります。したがって、鳥羽商船へは比較的近く、また通勤も短時間です。今まで自宅から遠い学校に勤務することが多かったので、今までにないくらいの短時間での通勤となり、ありがたく思っています。鳥羽市自体は、自宅がそう遠くないこともあり、幼少の頃から何度も訪れ、よくなじんだ街です。

日和山にあった観光エレベーターのことなど、今では知っている人も少なくなつたことを懐かしく思い出すことができます。

しかし、本年度鳥羽商船に勤めることとなって、改めて鳥羽の良さを感じています。

特に、背後に山がせまり、目の前には海を臨む鳥羽商船の地理的環境の良さを感じています。

歴史と豊かな風土に恵まれた環境の中で学生の皆さんには、充実した学校生活を送って欲しいと思います。

私は、学生の皆さんがそのような豊かな学校生活を送れるためのお手伝いをさせていただけることとなり、感謝しています。

教 職 員 の 人 事 異 動

(平成 25 年 3 月 31 日付け)

【退職】

水野 逸夫 (電子機械工学科教授)
 永野 重隆 (制御情報工学科教授)
 中山 雄治 (総務課専門員)
 村田 修平 (学生課課長補佐)
 川本 伸美 (テクノセンター技術長)
 河之口典子 (学生課学生生活係事務主任)
 中山ちづ子 (総務課図書係再雇用職員)
 谷川原利起 (学生課学生生活係再雇用職員)
 野村 五生 (テクノセンター再雇用職員)

【転出】

三重大学生物資源学研究科チーム地域イノベーション学
 研究科事務室長 ← 塩崎 克好 (総務課課長補佐)
 三重大学財務部契約チーム主任
 ← 岡田 慎一 (学生課学生生活係学生生活主任)
 愛媛大学国際連携支援部国際連携課総務企画チーム
 ← 岩田 剛 (総務課企画・地域連携係)

(平成 25 年 4 月 1 日付け)

【教員】

○昇任

商船学科	教授	嶋岡 芳弘
一般教育	教授	橋爪 仙彦
電子機械工学科	准教授	増山 裕之
電子機械工学科	准教授	藤井 正光
一般教育	准教授	小澤 裕香

○採用

一般教育	講師	西世古 佛治
電子機械工学科	助教	宮本 潤示
制御情報工学科	助教	都築 啓太
電子機械工学科再雇用教員教授		水野 逸夫
制御情報工学科再雇用教員教授		永野 重隆

○併任等

寮務主事	富澤 明
専攻科長・生産システム工学専攻主任	坂牧 孝規 (留任)
商船学科長・航海コース主任	石田 邦光 (留任)
電子機械工学科長	廣地 武郎
制御情報工学科長	榎本 隆二 (留任)
一般教育科長	鏡 ますみ
図書館長	伊藤 立治
総合情報センター長	江崎 修央 (留任)
学生相談室長	古森 郁尊
国際交流推進室長	石田 邦光 (留任)
入試広報室長	攪上 平之介 (留任)
海事システム学専攻主任	鈴木 治
機関コース主任	伊藤 友仁 (留任)
副テクノセンター長	藤井 正光
副国際交流推進室長	橋爪 仙彦
教務主事補	中平 希
学生主事補	山田 英生
寮務主事補	鎌田 功一

(平成 25 年 4 月 1 日付け)

【職員】

○転任

富山高等専門学校管理課長 ← 竹山富士男 (総務課長)

○転入

総務課長 前田 輝伸 (総合研究大学院大学財務課課長補佐)
 総務課課長補佐 (総務担当) 兼務：企画室長、企画・地域連携係長
 研屋 元弘 (三重大学医学系研究科チーム係長)
 学生課課長補佐
 喜井 健二 (学務部教務チーム共通教育事務室係長)
 総務課総務係長
 林 浩史 (財務部契約チーム主任)
 総務課調達係調達主任
 中村 健太郎 (企画総務部人事チーム主任)

○昇任

テクノセンター技術長 長谷川 秀文 (第二技術室長)

○採用

総務課財務・経理係長	大西 裕
学生課教務係	高尾 毅
学生課学生生活係	中島 由喜
テクノセンター技術職員	木村 佳嗣 (総合情報センター技術補佐員)
総務課人事労務係再雇用職員	中山 雄治
学生課教務係再雇用職員	村田 修平
学生課学生生活係再雇用職員	川本 伸美
総務課総務係事務補佐員	中北 圭子
総務課調達係事務補佐員	家田 希

○配置換等

総務課総務係総務主任
 北山 里見 (総務課企画・地域連携係企画主任)
 学生課学生生活係学生生活主任
 松本 志保子 (総務課総務係総務主任)
 総務課企画室企画・地域連携係
 徳田 敬明 (学生課教務係)
 テクノセンター第二技術室長
 中野 博基 (テクノセンター技術専門職員)
 総務課図書係事務補佐員
 米倉 佐恵子 (学生課教務係事務補佐員)
 総務課財務・経理係事務補佐員
 江崎 幸代 (総務課調達係事務補佐員)



平成24年度卒業証書、 修了証書授与式を挙

平成24年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式が、去る3月5日（火）10時30分から本校第2体育館において挙

行された。藤田校長から、卒業生一人一人に卒業証書が授与され、来賓、保護者、教職員及び在校生から祝福を受けて、学窓を巣立っていった。



平成25年度 名誉教授称号授与式

平成25年5月14日、名誉教授称号授与式が校長室にて行われました。授与式では、藤田稔彦校長から称号が授与されました。

平成25年度 名誉教授 水野逸夫、永野重隆



公開講座・出前授業実施

公開講座

サイテクランドin鳥羽

講座名	開催日
Wii リモコンでゲームプログラミング	8月3日（土） 9:30～15:30
おもしろ理科実験	8月3日（土） 10:00～15:00
LEGO で自動走行ロボットを作ろう	8月20日（火） 9:30～15:30
ソーラーカー作成	8月20日（火） 9:00～12:00
手作り太陽電池	8月21日（水） 9:30～16:00 8月22日（木） 9:30～12:00
君が船長 船でGo！	8月22日（木） 9:00～16:00

秋の公開講座

講座名	開催日
小学生のためのバレーボール教室	10月21日（月） 19:00～21:00 10月28日（月） 19:00～21:00

その他の講座

講座名	開催日
みえアカデミックセミナー	7月28日（日）
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海（四日市港まつり）	8月4日（日）
練習船「鳥羽丸」による名古屋港 PR 活動及び一般公開	11月9日（土）、 10日（日）

出前授業

体験型学習

教養講座

講座名 Course	担当学科 Department
船のエンジンを「動かす」 物を冷やす仕組み	商船学科・テクノセンター 商船学科
LEGO を用いたロボット製作入門	制御情報工学科
風に向かって走れーウィンドカー作製ー	商船学科
オリジナルTシャツ・バッグ作成講座	制御情報工学科
食品の加熱って？ ー電気を利用したヒーターの製作ー	商船学科

講座名 Course	担当学科 Department
トランシーバを使ってみよう	商船学科
日常で使えるロープワーク	商船学科
ものはどこから どのように運ばれてくるの？	商船学科



編集後記



学校だより第78号をお届けいたします。

本号では、特集として「絵はがきにみる本校の明治・大正時代」を掲載しました。輝く歴史を誇る本校の今の姿をお伝えるのが、学校だよりの基本的役割ですが、時には歴史を振り返るのもよいことです。今回も多くの方に記事を執筆していただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

（編集長）